

行政報告―町長

幌延町産ミズナラ樽で熟成したワインが3月に完成。5月10日に町民を対象とした特別講演会と試飲会を開催した。6月からふるさと納税の返礼品に加える。また、ミズナラで作った樽を活用した取り組みが北海道経済の活性化に寄与したと認められ、北海道経済産業局長から感謝状が贈呈される。

令和3年3月31日までの期間、北海道職員の山田輝也氏を産業振興課農林グループ主幹として任命した。

JR北海道の単独維持困難線区、北海道8線区の関係団体の総意により、利用促進に資する投資的経費に対して、全体で総額年2億の支援を行う。本町の支援額については、次回以降の議会において審議いただきたい。

今後とも、JR北海道と地域が一体となり、「宗谷線アクションプラン」を遂行し、地域を支える持続的な交通体系を推進していく。

教育行政報告―教育長

令和元年度町内の児童生徒数は、小学校2校で百19名、中学校は2校で58名。

指導体制については、英語等の学習指導のため、幌延小学校の学習支援員を問寒別小学校にも派遣した。

教育課程の具体的な取組は、問寒別中学校と幌延中学校でテレビ会議システムを使用し、遠隔授業を実施。

宗谷地区中学校陸上大会が開催され、幌延中学校の村上湖太君、金田陵希君、小原守利君、加藤睦丈君、更に4百メートルリレーでそれぞれ全道大会への出場権を獲得した。

問寒別中学校の遠藤芽衣さんが、2年連続で全国児童・生徒木工工作コンクールで入選し、日本木青連会長賞を受賞。

剣道スポーツ少年団で加賀山友暢君、団体戦で幌延小学校児童4名が北海道少年剣道錬成大会及び赤胴少年剣道錬成大会への出場権を獲得した。

地域の課題をとらえて

2氏が一般質問



無量谷 隆

・人材バンクと町職員住宅のあり方について

人材バンク制度について

質問 人口減少に伴い、人材不足が問題となってきた。人材不足を解消するための取組について、人材バンク制度のような仕組みの必要性を感じている。

短時間労働が可能な方に小さなお手伝い感覚で軽作業などの働く場所を提供できる人材バンクを活用した派遣制度ができないか。

町長 働く意欲のある町民が経験や知識を生かして、自身のライフスタイルに合わせた臨時的かつ短期的な軽作業などを提供するシルバー人材センターのような仕組みの必要性は感じている。その実現の可能性を含め、協議を進めている。

町職員住宅のあり方について

質問 町の職員住宅は、満室状態だと聞いている。職

員住宅は給料の少ない若手職員を優先すべきである。管理職などの職員は持ち家や他の住宅を借りるなどし、職員住宅を若い職員に譲るべきではないか。

町長 近年採用した職員の7割から8割が幌延町外の出身者となっている。

職員が幌延町内に持ち家を取得したうえで業務を行うことを住民が望んでいると思うが、個人の一生に影響することであるため、それぞれの判断になる。

